



ぬくもり

第2号

住んでみたい四絡
住んでよかった四絡

～認めあい支えあふ
やさしさあふれるまちづくり～

◆ 発行者 四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会（四絡コミュニティセンター内）



「住んでみたい四絡 住んでよかった四絡」の実現に向かって

四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会

会長 安達清志

四絡地区は令和5・6年度の2年間、出雲市同和教育研究指定事業の指定を受けています。この事業を推進するため昨年7月、四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会を組織し、11月に四絡地区住民意識調査を実施しました。そして本年4月、本格的に研究実践を開始し、これまでに、広報「ぬくもり第1号」の発行、シンボルマークと人権標語の募集、地区別研修の実施、住民意識調査結果のポルトガル語への翻訳やホームページ掲載、のぼり旗や横断幕の作成などに取り組んできました。中でも一年目の今年、特に力を入れているものに「研修活動」があります。

研修活動については、6月から8月に、地区別研修として、DVD「親愛なる、あなたへ」を視聴しての研修を、園山哲男出雲市同和教育啓発指導員を講師として実施しました。参加された方から「ドラマに感動した」「来て良かった」という感想をいただきました。11月からの地区別研修は、8月までとは別のDVDを準備して行います。

一方こうした地区別研修とは別に、町内会やPTA、サークル、職場、コミュニティセンターの専門部、各種団体など、研修をしていただく団体を募集しての取組も行っています。「一人の百歩より、百人の一步」という思いから、多くの方に研修に参加していただきたいと思っています。

さて、保育園や幼稚園では保育活動全体を通じて組織的に人権教育が行われています。小・

中学校では、「同和教育を全ての教育活動の基底に据える」ことを基本姿勢とし、児童・生徒の人権意識を高め、差別をなくす実践力を培う教育が行われています。私たち地域住民の役割は、こうした学校で学んでいる子どもたちのための環境づくりだと思います。「地域の大人がお互いを大切にする」とは、子どもたちにとって大切な教育環境です。子どもたちは、大人が意図しないところでも、色々なことを学び取っています。子どもたちのためにも、大人が研修をする機会を大切にしていきたいと思っています。

研究実践を開始してから半年、地域の皆さまには、推進委員会の取組に対し、温かいご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。「住んでみたい四絡 住んでよかった四絡」の実現に向かい、これからどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度の人権標語について(お知らせ)

先に募集した一般分の人権標語に31点の応募があり、審査の結果、全てを入賞と決定しました。多くの作品をいただき、ありがとうございました。

なお、全ての作品を別紙に掲載し、また、コミュニティセンター内にも掲示しておりますので皆さまにお知らせします。

四絡地区での人権・同和教育研修の取組や参加者の声などについて、その一部をお知らせします。

人権・同和教育講演会

演題：「みんなが幸せに暮らすために！」
～「やさしさあふれるまちづくり」に向けて～

内容：DVD「親愛なる、あなたへ」視聴と講話

講師：園山哲男さん

5/14 事業推進委員会

四絡地区においては、生活スタイルの多様化、核家族化、少子高齢化が進んで自治会加入率が減少傾向にあり、「個」を偏重する意識の高まりとも相まって地域コミュニティの結びつきが弱くなりつつあります。

今回の研修では、人権や地域コミュニティのあり方について改めて考えるための教科書的DVDを視聴して、共生社会の再生について学びました。研修に出席された委員の皆さんは既によく理解し、地域の諸活動を通じて改善に取り組んでおられるので、コミュニティ活動に加わっていない方々に是非見ていただきたい教材だと思いました。（朝山一玄）

8/27 矢野・姫原地区

四絡地区同和教育研究指定事業推進委員会の地域研修の一環として、8月27日(日)コミュニティセンター大ホールにおいて姫原地区及び矢野地区住民を対象とした講演会が開催されました。両地区合わせて52名参加のもと、DVDを視聴し出雲市同和教育啓発指導員園山哲男さんによる「みんなが幸せに暮らすために！」～やさしさあふれるまちづくりに向けて～と題してプロジェクターを活用した講話がありました。

特に印象として残った内容は、人間関係が希薄になってきている地域社会にあって、互いに寄り添い、支えあふ「温かな共生社会」創造のため、一人ひとりが社会の様々な問題に関心を持ち『恩送り』➡感謝！の気持ちを大切に行動することが求められていると感じました。（濱村 稔）



コミュニティセンター専門部

4/14 環境部

DVD「ウイルスより怖いもの」視聴

やさしいまちづくりを一緒に

環境部は4月14日、部員14名の参加で中学生の人権作文をもとに作成されたDVD「ウイルスより怖いもの」を視聴しました。

コロナ禍で「この地域の在住者です」とプレートを付けて走っている県外ナンバーの車を見て異変を感じた中学生が、自分自身を振り返り、県外の人たちや感染者に対する差別意識がなかったのか、気づかないまま人を傷つけていることがあるのではないかと、問いかけてくれました。身近な出来事をみつめ直すきっかけとなり、差別について考え、人を思いやることの大切さについて一緒に学ぶことができました。

今回の研修が、どんな時でも他者への思いやりを忘れない、人権を尊重する地域づくりへの取組として広がることを願っています。

7/4 女性部

「男女共同参画ミニ講座」開催

講師：奥村美香さん

7月4日(火)「女性の健康講座」に併せ「男女共同参画ミニ講座」を開催しました。

当日は出雲市男女共同参画センターより講師をお迎えし、参加者28名がジェンダーチェックシートによるセルフチェックをした後、「ジェンダー」「男女共同参画」について、わかりやすくお話をしていただきました。

参加された皆さんからは、男女が共に認めあうことや、「～らしさ」にとらわれず個性を尊重することの大切さについて、あらためて意識することができたとのこと感想をいただきました。

(伊藤美樹)

諸団体

4/24 青少年健全育成協議会

DVD「立ち止まる」の視聴と感想発表

青少年健全育成協議会で4月24日、会員12名が参加して、中学生の人権作文をもとにつくられたDVD「立ち止まる」の視聴による研修会が開催されました。

(参加者の感想から)

- 自分が子どもの頃、容姿からくる「あだな」で友達を呼んでいた(からかい半分)ことを思い出しながら、相手(言われた方)に対する配慮(思いやり)が全く無かったと反省をしています。
- 普段の会話で、相手が傷つく言葉を意識することは非常に難しいと感じた。それでも、今後、気を付けて会話をしようと思う。
- 学校を無断で休んだ作者に対する、学級担任の対応(叱らない、安心できる言葉がけなど)がよかったと感じた。
- 加害・被害どちらにも理由があるが、その理由の中にも深い理由(加害者側が実は被害者側だった)があり、表面だけで判断することなく、深層をつきつめていかなければならないと感じ、対応したい。

渡橋自治協会

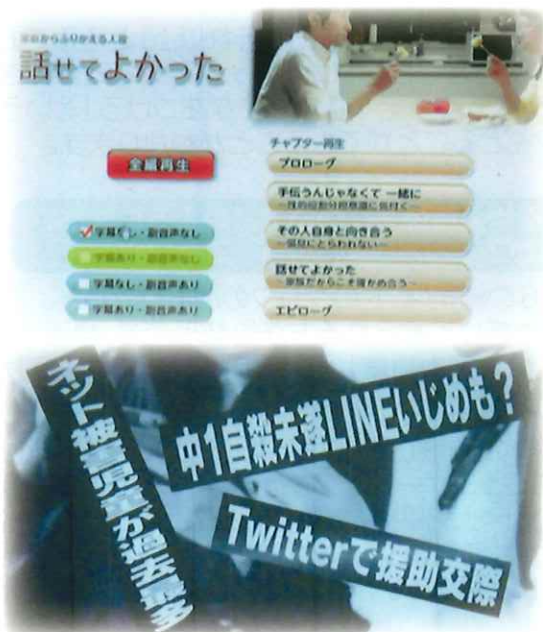
毎年の自治協会総会において、
人権啓発ビデオを視聴

渡橋自治協会では、10数年前から自治協会の総会の終わりに、人権・同和教育研修としてビデオを鑑賞しています。

初めは「人権の話は難しいから」との意見もありましたが「でも大事なことから開催すれば協力しましょう」の声で、身近な問題で短時間のものをと考えて取り組むことにしました。

数回見ると、最近はインターネットやSNSのトラブル…と身近なところに人権問題が起きていることがわかって頂けたと思っています。

渡橋では「あいさつをかわそう明るいまちづくり・今日も笑顔で声かけて」のスローガンのもと、明るいまちづくりに取り組んでいます。



四絡連合福寿会

豊かな人権感覚の深まりを求めて

私たち四絡連合福寿会では、この度の同和教育の地域指定を、人権についての正しい認識と理解を深める絶好の機会ととらえています。

とかく時間の経過とともに私たちの記憶から薄れてしまいがちな人々を苦しめた様々な不合理な事象について、文献を紐解くことによって掘り起こしたり、また時には現地でのフィールドワークを組み込みながら研修を深めていきたいと考えています。

基本的には奇数月を研修の月と定め、研修活動に取り組んでいます。



今年度はこれまでに

- ①DVD「あなたに会えてよかった」を視聴しての意見交換
 - ②大森地区の農民や鉱夫についての講話
石見銀山として現在は観光地化し、県内外から多くの人々が訪れている大田市大森地区。そこで生活し、年貢の取り立てに苦しむ農民や劣悪な環境の銀採掘現場で酷使され使い捨てられた鉱夫たちの生きる希望のない苦しみと満ちた生活について学んだ。
 - ③指導員による人権・同和教育問題についての講話の3回の研修会を実施しました。
今後、
 - ④DVD「生まれ来る子へ」を視聴しての意見交換
 - ⑤大正中期まで続いた「からゆきさん」を事例とした研修
 - ⑥四絡地区の高齢者に呼びかけ、外部講師を招聘しての「講演会」を予定しています。
- また、次年度(令和6年度)についても、今年度と同様、「文献をととしての事例研修」「差別事象をとりあげたDVDの視聴」「外部講師による指導」を組み込んだ取組をしていきたいと考えています。
- 何れにしてもこの2年間の取組が、私たち連合福寿会会員の人権感覚の深化を図る貴重な機会ととらえ、じっくりとかつ地道に取り組んでいきたいと考えています。(吾郷弘司)

すべての人とともに進める まちづくり
～人権に関するアンケート(外国人向け)から～

四絡には、現在471人(7月末現在)の外国人の方が住んでおられます。(全体の約4%) 外国人の子どもたちもたくさん学校に通っています。同和教育研究指定事業の準備段階から外国人の方と関わる問題が大切であると考え、昨年11月に外国人向けの意識調査を行いました。派遣会社の方にご協力いただき、67人の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

アンケートの概要や結果についてQ & Aの形でまとめてみました。

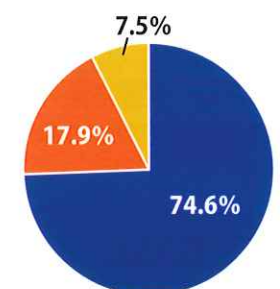
Q1 このアンケートの内容はどのようなものですか。

A1 人権に関するアンケート(外国人向け)は、島根県外国人住民実態調査(2019年)の内容を参考にした10問です。日本での生活、日本人との交流、差別、地域や行政に望むこと等について聞く内容としました。アンケートの全部の内容について、四絡コミュニティセンターのホームページからご覧になれます。(日本語版とポルトガル語版があります)

Q2 外国人の方は、日本人との交流をどのくらい望んでおられますか？

A2 アンケートの問2の結果は、右のグラフのとおりでした。
☆積極的に交流したい方が75%近くになっています。

問2 あなたの家の近くに住んでいる日本人とどのような交流がしたいですか？

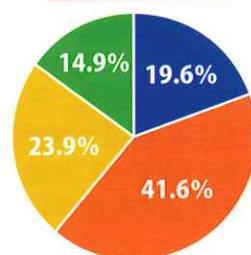


■ 積極的に交流したい
■ 特に交流したいと思わない
■ その他

Q3 外国人の方とどのような日本語だとコミュニケーションをとりやすいでしょうか。

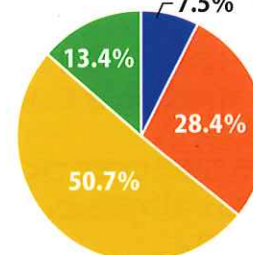
A3 アンケートの問3の結果は、下のグラフのとおりでした。

日本語を聞く



問3 あなたは日本語がどのくらいできますか？

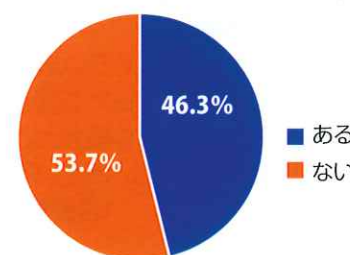
日本語を読む



■ 新聞や雑誌を読むことができる
■ 簡単な漢字まじりの言葉を読むことができる
■ ひらがなまたはカタカナは読むことができる
■ ほとんど読むことができない

☆「聞く」ことに関しては、約61%の方が「ゆっくり話せばわかる」(またはそれ以上)と答えておられます。また「読む」ことに関しては、約87%の方が「ひらがなまたはカタカナは読むことができる」(またはそれ以上)と答えておられます。日本語で「ゆっくり話す」「ふりがなをつける」というようなちょっとした配慮で、良いコミュニケーションをとることができることがわかります。

問6 日常生活の中で、外国人であることを理由に差別や人権侵害を感じたことがありますか？



Q4 外国人の方は、差別や人権侵害についてどのように感じておられるのでしょうか？

A4 アンケートの問6の結果は、左のグラフのとおりでした。
☆差別や人権侵害を感じておられる方が約46%です。場面としては、「会社の人言葉や態度」、「近所の人言葉や態度」が多くなっています。

このアンケートから、多くの外国人の方が日本人との交流を望んでおられること、また、良いコミュニケーションをとるためのヒント、外国人の方が感じておられる差別や人権侵害について知ることができました。

私たちは、四絡在住のすべての方と認めあい支えあうことができるよう、今後も取組を続けたいと思っています。ご協力をよろしくお願い致します。